

研究課題 (テーマ)	よろずレポート相談所 (年次を超えて学生同士が教え合い学びあう教育)		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	知能ロボット工学科	教授	高木 昇
		准教授	高野 博史
		講師	澤井 圭
		助教	玉本 拓巳
研究結果の概要			
<p>1. 実施内容</p> <p>大学院生(M2,M1)と学部生(B4)が相談員となり、実験、演習、講義のレポートを下級生に指導する場として「よろずレポート相談所」の運営を行なった。学生同士が教え合い学び合うことで、下級生はレポートの質や理解度向上、相談員は指導能力や論文執筆能力の向上を行えると考えて運営を行った。</p> <p>令和元年度は、前期は月曜 9-10 限と火曜 5-6 限・9-10 限、後期は月曜 7-9 限と金曜 9-10 限に西棟の講義室にてよろずレポート相談所を開設し、全 38 回実施した。添削科目は、知能ロボット工学概論(B1)、物理実験(B1)、パターン情報処理(B2)、知能デザイン工学実験 1(B3)であった。</p> <p>2. 教育改善効果</p> <p>知能デザイン工学実験 1(B3)の実験報告書における効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談時間の予約制については 90%の学生が良かったと感じていた。理由としては、混雑による待ち時間が無いこと、予定が立てやすい(レポート作成の目安)ことがあげられた。 ・80%の学生がレポート内容を改善できたと回答している。改善点として、相談者からは誤字や図表の作成能力や文章作成能力の向上が挙げられている。一方で実施日の拡充などの要望があった。また相談員と教員の指導内容が違って困ったという意見もあった。 ・相談員については、自己の学力向上に寄与し、論文作成のための勉強になったと 90%の学生が回答した。自身の成長については、「論文作成の際に体裁についても自分でしっかりチェックするようになった」という意見があった。 ・教員からは、昨年と比較して、レポートの質に特別な改善は見られないが、体裁を重点的にチェックするという目的は果たしているように感じている。 <p>2.2 その他の講義レポートにおける改善効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生や2年生では、70%以上の学生がレポートの添削が役立っていたと回答した。 			
今後の展開			
<ul style="list-style-type: none"> ・学生と相談員の相互にメリットがあったこと、多数が継続を望んでいたことから、次年度も継続したい。 ・これまでと同様に 1, 2 年生のレポートは体裁を良くすることを目標とし、3 年生の学生実験は本年度と同様に教員が相談員に対しチェックすべき内容を指導することで実施する。 			